

景況調査

報告書 NO. 58

平成25年 1月～3月 実績
平成25年 4月～6月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成24年度第4四半期(H25. 1～3月)景況調査

1. 調査時点 平成25年3月6日～22日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 118[111企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	47 (3)	8 (2)	17 (1)	29	10 (1)	7	118 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で△31.3、前期実績(10～12月・△33.3)と比較すると2.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前期比は△29.6、前期実績(10～12月・△25.8)に比較すると3.8ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△39.8、前期実績(10～12月・0.8)と比較すると40.6ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△35.6、前期実績(10～12月・△15.9)と比較すると19.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H25.4～6月)見通し**については△15.3、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △29.6)と比較すると14.3ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち食料品は、年末の需要期を過ぎて、売上・収益ともに厳しい状況。織物は、ジャガード・インテリア関連は厳しい状況も、寝装品は昨年ショートした挽回生産と、今季に向けた前倒し生産で活況である。漁網・ロープは、復興需要による特需は沈静化。漁網は魚価安・不漁で厳しい。土木は活況。建築等は例年並み。鉄工のうち、工作機械関係は減産傾向が鮮明に。自動車部品関連は、新車(HV系)効果で増加傾向も、頭打ちの状態。化学・プラスチックのうち、化学は円安傾向で荷数横バイも収益性改善。プラスチックは生産・売上は減少。原材料高による利幅縮小で苦しい。

「**建設業**」は、公共工事需要期で仕事量はあるが単価低く、民間工事はさほど大きな動きはなし。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、＜産業資材関連＞エコカー補助金制度終了の反動で資材関連は大きく減産。円安による原材料高に伴う価格転嫁に奔走。＜寝装関連＞年明け寒波が続き秋冬物の消化は順調。羽毛布団・毛布等が好調。逆に春夏物の導入は遅れた。＜インテリア関連＞春の就進学・移動期で出荷数量は順調。円安による原材料高で値上げ要請が増加している。＜衣料関連＞厳冬の影響で春物の動きは鈍く、3月に入りやや持ち直すも低価格帯の商品が中心。プリント・合繊は好調も先染は苦戦。

「**小売業**」は、個人消費は持ち直しの兆しがあるも低調。原油高騰や円安による原材料高が、各商品の小売価格にも反映され利幅が圧迫される。飲食は、厳しい状況も例年並は確保。忘年会・歓送迎会は小グループ化の傾向。ランチは良いが夜の入込客数は少ない。石油等その他小売は、米財政不安の後退や地政学リスクの高まりで原油価格は高騰傾向にある。

「**サービス業**」のうち旅館関係は、宿泊者数では1～3月前半まで厳しい状況が続いたが、中旬以降は春休みで上向き。ラグーナ蒲郡で開催中の「ジブリがいっぱい」効果や、天候にも恵まれた3月中旬以降閑隙予約が入る。また、近隣からの日帰り客も併せて増加。

「**運輸通信業**」貨物輸送は、輸送量全体は対前年微増。輸出は円安傾向も、やや減少。輸入はエネルギー需要を中心に横バイ。木材等の原材料のうち、原木の輸入はユーザーの事業停止と産地の出荷が滞った影響で大きく減少。完成車の輸出台数は、欧州販売不振で前年同期の約1/3に。バス業界関係 昨年と同じ状況であるが、個人の動きが良くなっているように思える。ツアーに関しては日帰りが主に人気がある。宿泊はお値打ちプランは良好。

設備投資状況は、24事業所(38件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は21事業所(27件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、原材料(燃料)高、競争激化、人件費の増加が項目別で上位を占めていた。

当地区において 円安の影響が各業種に。製造業を中心とした輸出関連では今後の生産増等に期待されるが、輸入関連では原材料高・利幅縮小を懸念する声も多い。新年度に入り、アベノミクスと称される新政権の施策展開が本格化されるが、当所としてもアクションプラン推進等により、中小企業相談所はじめ経営支援体制を一層強化し、経済振興を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

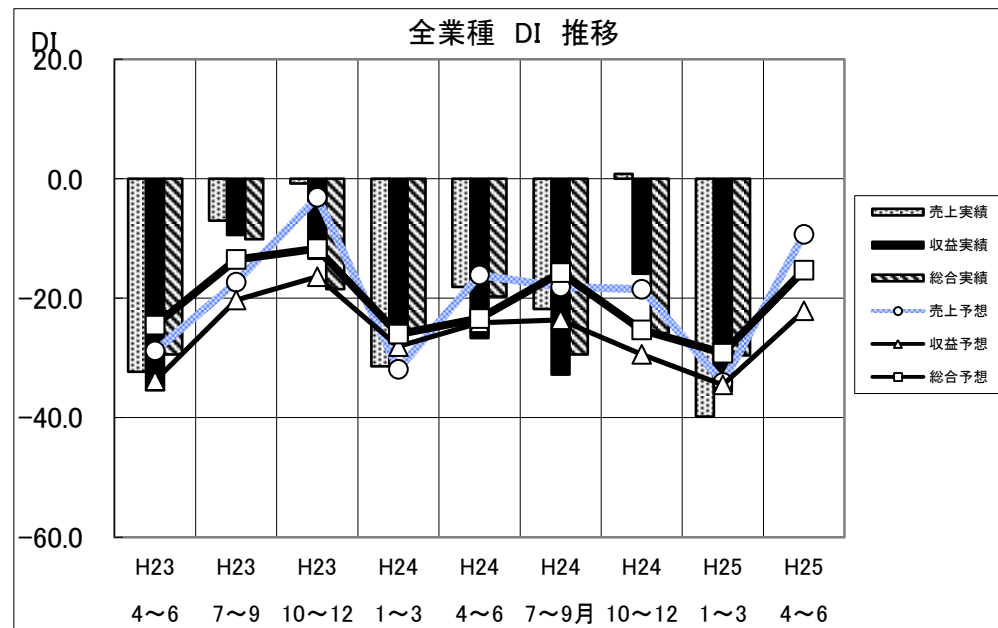
＜全業種 各項目別推移＞

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-32.2	-39.8	-9.3	H24. 1～3月実績	-7.3	-31.4	-21.9	-27.7	-19.0	-25.6	-23.4
②製品・商品在庫	-17.0	-14.5	-11.1	H24. 4～6月実績	-7.9	-18.1	-18.9	-26.7	-12.6	-19.7	-15.7
③資金繰り	-17.0	-11.9	-14.4	H24. 7～9月実績	-29.4	-21.8	-33.6	-32.8	-32.0	-29.4	-25.3
④採算(収益)	-39.3	-35.6	-22.1	H24. 10～12月実績	-31.6	0.8	-35.8	-15.9	-33.3	-25.8	-29.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-3.4	-2.5	9.3	H25. 1～3月実績	-32.2	-39.8	-39.3	-35.6	-31.3	-29.6	-15.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-31.3	-29.6	-15.3								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月見通し
売上	-32.3	-7.0	-0.8	-31.4	-18.1	-21.8	0.8	-39.8	-9.3
収益	-35.4	-9.4	-13.4	-27.7	-26.7	-32.8	-15.9	-35.6	-22.1
総合	-29.4	-10.1	-18.5	-25.6	-19.7	-29.4	-25.8	-29.6	-15.3

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

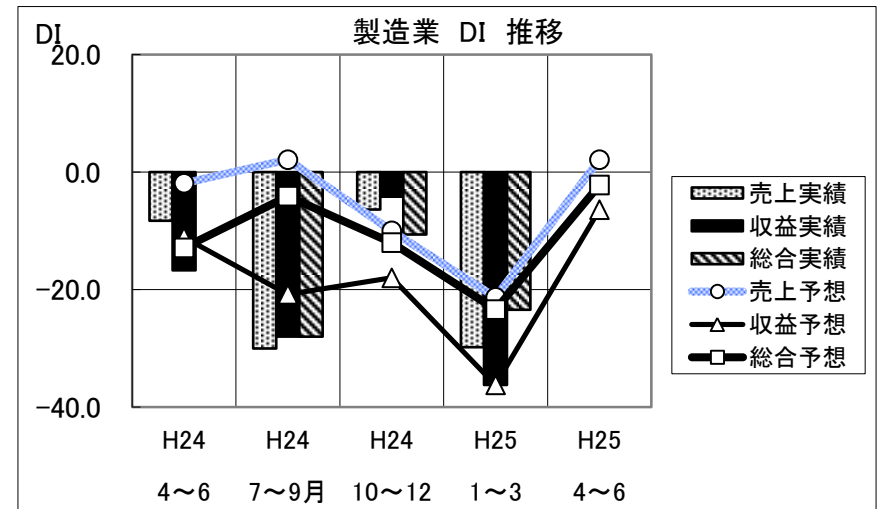
売上DI値は△29.8、前期実績10～12月期(△6.4)に比して23.4ポイントの下降、収益DI値は△36.2、前期実績10～12月期(△4.2)に比して32.0ポイントの下降、総合判断DI値は△23.4、前期実績10～12月期(△10.6)に比して12.8ポイントの下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向である。

向こう3カ月の見通し 収益・総合は僅かに水面下ながら、売上・収益・総合とも改善にある。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-23.5	-29.8	2.1
②製品・商品在庫	-12.8	-10.6	-2.2
③資金繰り	-12.8	-6.4	-2.1
④採算(収益)	-31.9	-36.2	-6.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	2.2	14.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-27.6	-23.4	-2.2



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-8.3	-30.0	-6.4	-29.8	2.1
収益	-16.7	-28.0	-4.2	-36.2	-6.4
総合	0.0	-28.0	-10.6	-23.4	-2.2

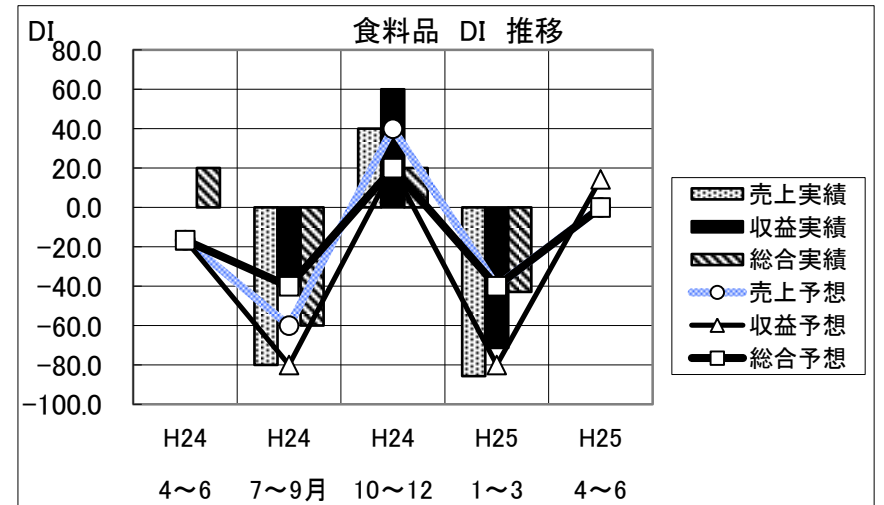
[食料品]

売上は、年末の需要期を過ぎ、前期比DI値は△85.7%と悪化。前年同期比でもDI値△71.4%と深刻な状況にある。収益では、前期比DI値で△71.4%、前年同期比でDI値△14.3%と悪化。急激な円安により、原材料価格の上昇による影響が多い。総合判断では前期比DI値は△42.9%、前年同期比でもDI値△42.9%と業況は悪化しており、さらに厳しい状況にある。向こう3カ月の見通し 収益DI値14.3%は改善の見通し。売上はDI値0.0%、総合判断DI値0.0%と横バイ。国内の食品業界は、海外製品との競争にさらされているが、原材料コストの負担感が高まるなど厳しい経営環境下にあって、いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-71.4	-85.7	0.0
②製品・商品在庫	-14.3	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	14.3
④採算(収益)	-14.3	-71.4	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	28.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.9	-42.9	0.0



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	0.0	-80.0	40.0	-85.7	0.0
収益	0.0	-40.0	60.0	-71.4	14.3
総合	20.0	-60.0	20.0	-42.9	0.0

[織物]

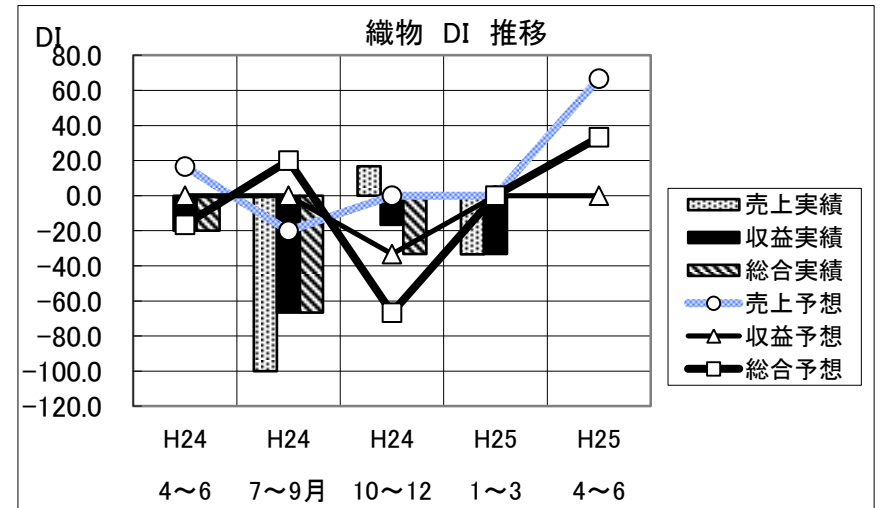
ジャガード・インテリア関連は変わらず大変厳しい状況。寝装品は昨年の需要期にショートした分、今季に向けての生産が前倒しで昨年末から始まっており稼働率は高い。

向こう3カ月の見通し ジャガード・インテリア関連は引き続き低調。稼働率も大幅な向上は見込めず、苦戦が続く見込み。寝装品は順調に生産が継続する見込み。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-33.4	66.7
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-33.3	-33.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	0.0	33.3



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	0.0	-100.0	16.7	-33.4	66.7
収益	-20.0	-66.7	-16.6	-33.3	0.0
総合	-20.0	-66.7	-33.3	0.0	33.3

[漁網・ロープ]

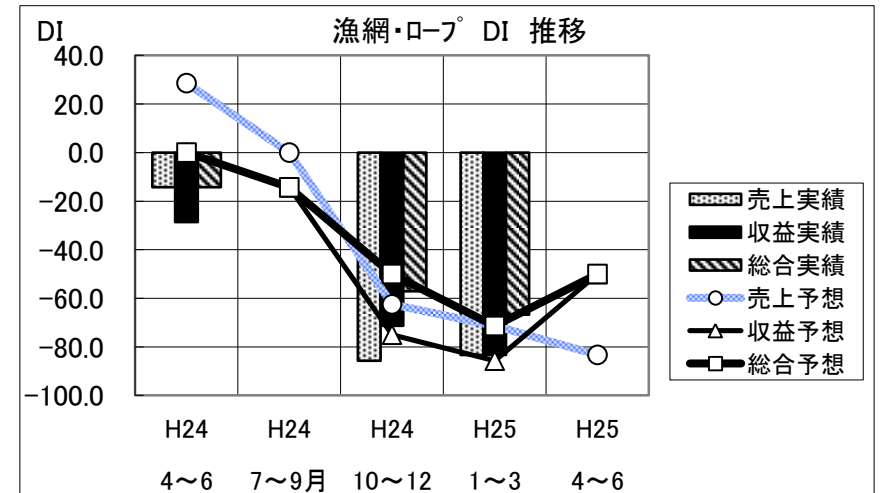
ロープ関連の復興需要による特需は平常化しつつある。土木関係は活況。建築関係は例年並み。漁網は魚価安・不漁で厳しいが少しずつ動きあり。自動車関係は受注減。全般的に円安による原材料高で利幅が縮小している。

向こう3カ月の見込み ロープは一部で動きあり。土木は引き続き活況。建築は首都圏・東北で動きがあり。自動車も回復の見込み。円安による原材料高で利幅縮小が懸念される。(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-83.3	-83.3	-83.3
②製品・商品在庫	-33.3	-50.0	-16.7
③資金繰り	-16.7	-16.7	0.0
④採算(収益)	-100.0	-83.3	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-83.3	-66.7	-50.0



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-14.3	0.0	-85.7	-83.3	-83.3
収益	-28.6	0.0	-71.4	-83.3	-50.0
総合	-14.3	0.0	-57.1	-66.7	-50.0

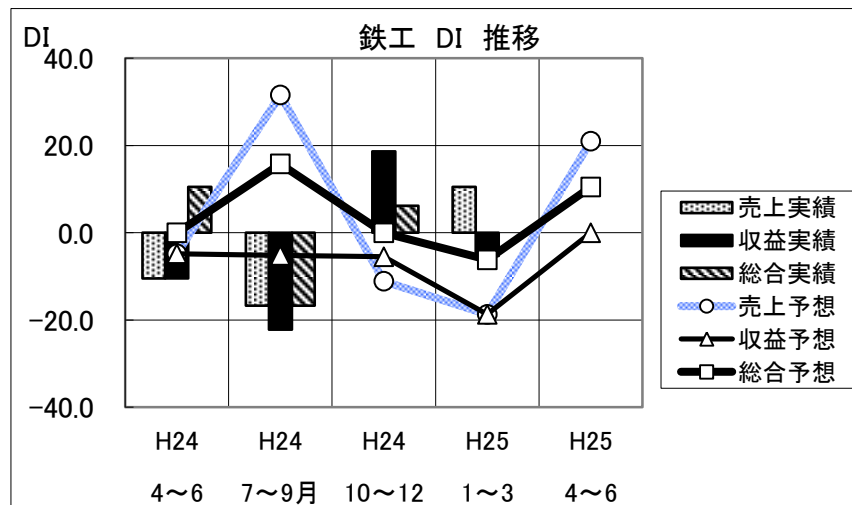
[鉄工]

＜工作機械関係＞ 国内生産は、今年に入り減少傾向が鮮明に。生産計画を注視している。受注は、世界中でデフレが止まらず機械受注統計も10月以降は内需外需合わせて1,000億円を割り込み減少の一途だが、2月分受注より反転。向こう3カ月の見通し 国内生産はアベノミクス効果でこの夏以降増加の見込み。特に8月以降の生産傾向を注視している。受注は、今年は各社増加傾向の見込み。欧州受注は不透明感が強く、中国受注は減少が止まり一服。アメリカの早期景気回復に期待。2月分受注は国内、輸出とも増加。国内の産業界は、安倍政権の実行力に期待が大きく、今年に入り景気は好転する見込み。円安・株価上昇・都市部中心の地価上昇を受け、国内の景気回復が軌道に乗るまで、不安材料の欧州問題は影を潜めて欲しい。

＜自動車部品関係＞ 生産は、自動車各社は新車(HV系)効果で増加傾向も、さらなる増産体制には疑問。向こう3カ月の見通し 生産は、各社とも新車効果で増産・コストダウンの収益確保で安倍政権に期待大。しかし、基本路線は海外への生産移転にあり、国内生産は現状維持で、今後も増産体制は期待できず。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	5.3	10.5	21.0
②製品・商品在庫	-5.3	-5.3	0.0
③資金繰り	-5.2	0.0	0.0
④採算(収益)	-10.5	-5.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	5.3	0.0	5.2
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	10.5



＜業況判断DIの推移＞

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-10.5	-16.7	0.0	10.5	21.0
収益	-10.5	-22.2	18.7	-5.3	0.0
総合	10.5	-16.7	6.2	0.0	10.5

[化学・プラスチック]

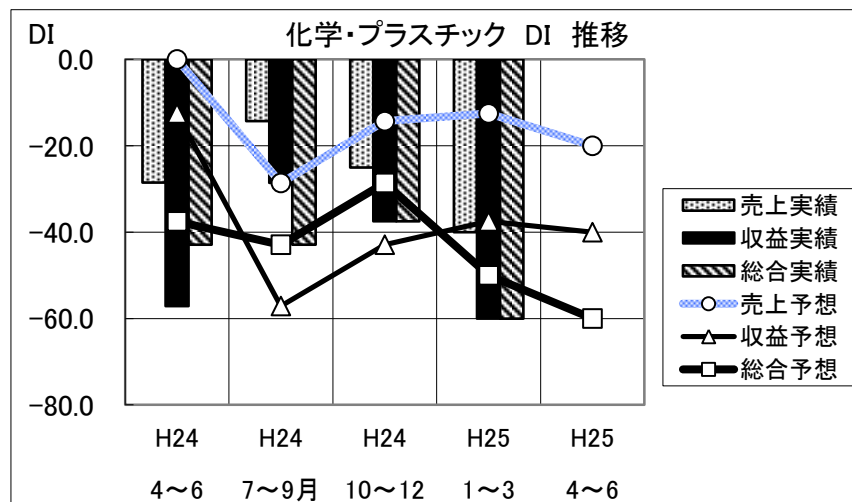
＜化学工業＞ 円安傾向により出荷数は横ばいだが収益性はかなり改善された。向こう3カ月の見通し 円安による収益性の改善は続いていくと思われるが、原材料価格の高騰が懸念させる。

＜プラスチック＞ 前年同期・前期と比べて生産額・売上額が減少した時期であった。円高プラス原油の高騰で利幅が減少して採算が合わなくなりつつある。

向こう3カ月の見通し 売上、採算とも今期より減少する見通しであり、更なる採算の悪化が懸念される。値上げ交渉による収益改善に期待したい。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-80.0	-40.0	-20.0
②製品・商品在庫	-20.0	0.0	0.0
③資金繰り	-60.0	-40.0	-40.0
④採算(収益)	-80.0	-60.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-20.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-80.0	-60.0	-60.0



＜業況判断DIの推移＞

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-28.5	-14.3	-25.0	-40.0	-20.0
収益	-57.1	-28.6	-37.5	-60.0	-40.0
総合	-42.9	-42.9	-37.5	-60.0	-60.0

建設業

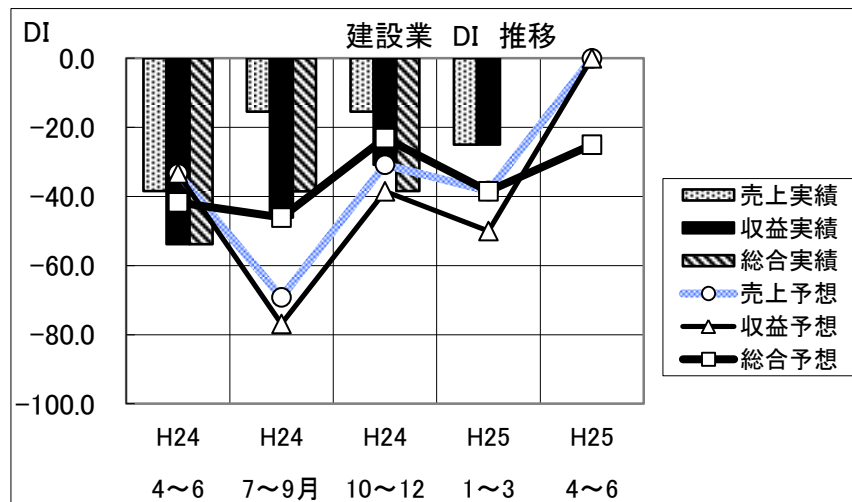
売上DI値は△25.0、前期実績10～12月期(△15.4)に比して9.6ポイントの下降、収益DI値は△25.0、前期実績10～12月期(△30.8)に比して5.8ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績10～12月期(△38.4)に比して38.4ポイントの上昇。売上は悪化、収益・総合は改善傾向も、依然として厳しい状況が続く。公共工事の需要期で仕事量はあるが単価は低く、民間工事もさほど大きな動きはなし。

向こう3カ月の見通し 売上・収益は改善。総合は悪化となっているが、国土強靱化を標榜する現政権の積極的な施策展開や消費税増税の駆け込み需要による公共・民間工事の増加に期待。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	12.5	-25.0	0.0
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	0.0
③資金繰り	-12.5	0.0	-12.5
④採算(収益)	28.6	-25.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	0.0	-25.0



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-38.4	-15.4	-15.4	-25.0	0.0
収益	-53.8	-46.1	-30.8	-25.0	0.0
総合	-53.8	-38.5	-38.4	0.0	-25.0

卸売業

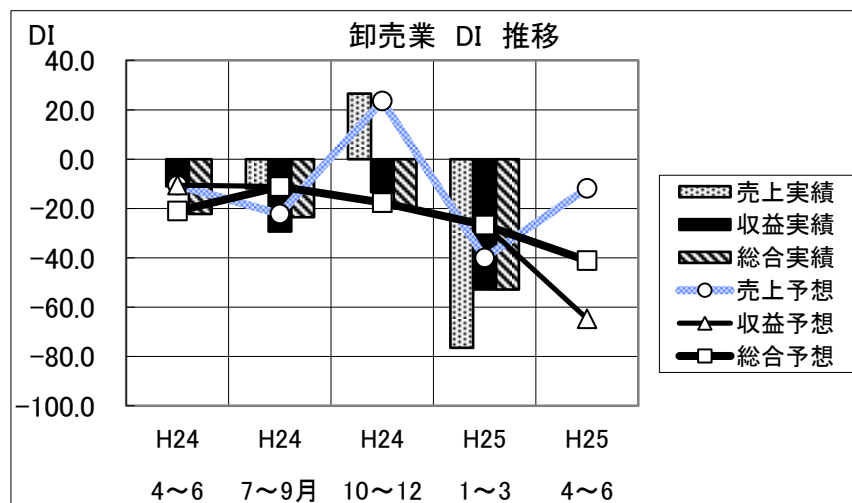
売上DI値は△76.5、前期実績10～12月期(26.6)に比して103.1ポイントの下降。収益DI値は△52.9、前期実績10～12月期(△13.4)に比して39.5ポイントの下降、総合判断DI値は△52.9、前期実績10～12月期(△20.0)に比して32.9ポイントの下降と、売上・収益・総合共に悪化傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上・総合は改善傾向にあるがいずれも水面下で、収益は悪化傾向と厳しい状況。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-58.8	-76.5	-11.8
②製品・商品在庫	-35.3	-23.5	-35.3
③資金繰り	-11.8	-11.8	-17.6
④採算(収益)	-47.0	-52.9	-64.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-5.8	-17.6	-5.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-35.3	-52.9	-41.1



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	0.0	-11.8	26.6	-76.5	-11.8
収益	-11.1	-29.4	-13.4	-52.9	-64.7
総合	-22.2	-23.5	-20.0	-52.9	-41.1

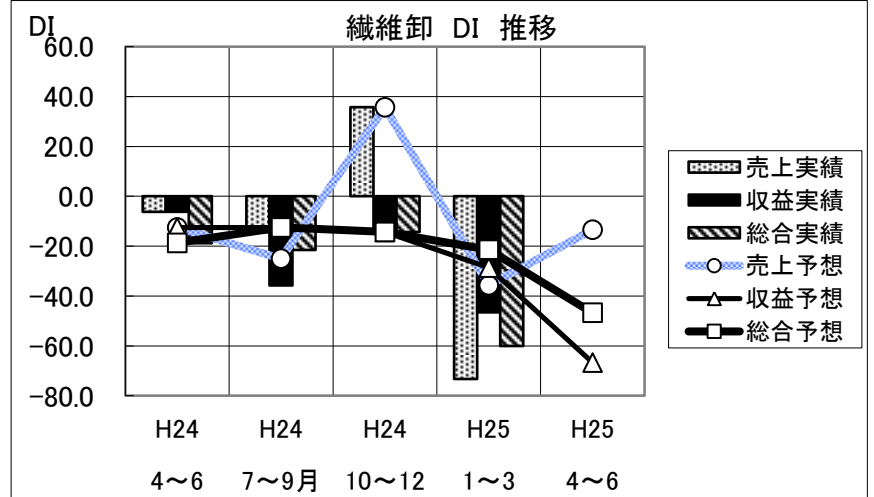
【繊維卸】

<産業資材関連> 昨秋以降エコカー補助金制度終了後の反動で、資材関連商品は大きく減産。円安で輸出関連商品の増産も無い。逆に、円安による原材料高に伴う価格転嫁が最大の懸念。向こう3カ月の見通し 震災復興需要で好転の見込みも、原材料値上げによる価格転嫁が課題。 <寝装関連> 年明け寒波が続き秋冬物の消化は順調。羽毛布団、毛布関係が好調。逆に春夏物の導入は遅れ、3月に入って売り場は切り替えが始まった。向こう3カ月の見通し 円安および原材料高による影響が顕在化。石油価格上昇でポリエステル系、副資材等の値上げ、世界的な綿花高騰による綿糸・生地価格の値上げ等が懸念材料。天候が例年通り推移すれば、夏物は冷感素材中心に昨年並みの売れ行きを期待。 <インテリア関連> 春の就進学・移動期で出荷数量は順調。円安による原材料高で値上げ要請が増加。また、前売り状況は業態によるが、専門店は比較的安定。ホームセンター・量販店は苦戦。向こう3カ月の見通し 春商戦終盤。5月以降のシーズンオフの仕事量確保が課題。原材料高による利幅縮小と価格転嫁が懸念。また、消費税増税の駆込需要による見込み生産や、円安による製造の国内回帰等にも若干の期待。 <衣料関連> 厳冬の影響で春物の動きは鈍く、3月に入りやや持ち直すも低価格帯の商品が中心。プリント・合織は好調も先染は苦戦。向こう3カ月の見通し 原料高による収益悪化が避けられない。在庫も売上減少により増加傾向にある。春夏物の動きは昨年並みの見込みも、為替の影響で利幅は縮小。国産品への回帰に若干の期待を持ちたい。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-53.3	-73.3	-13.4
②製品・商品在庫	-40.0	-26.6	-40.0
③資金繰り	-13.3	-13.3	-20.0
④採算(収益)	-40.0	-46.6	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.7	-20.0	-6.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-60.0	-46.7



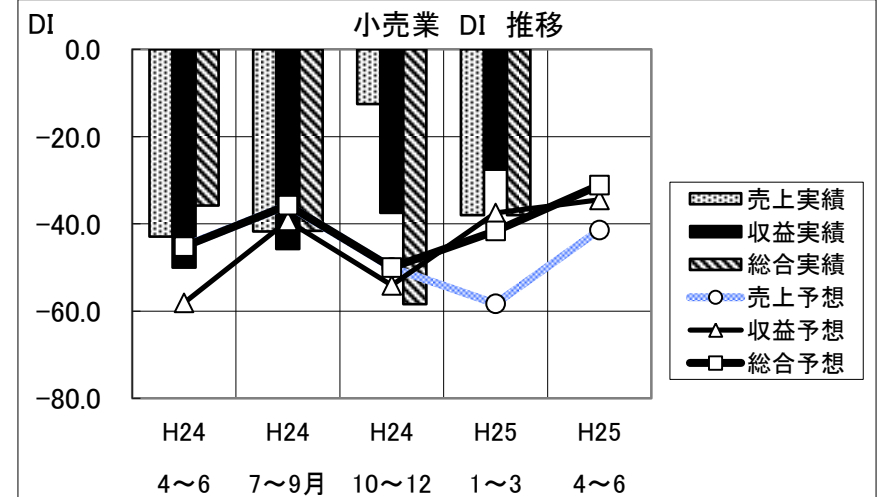
<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月見通し
売上	-6.2	-14.3	35.7	-73.3	-13.4
収益	-6.2	-35.8	-14.3	-46.6	-66.7
総合	-18.8	-21.5	-14.3	-60.0	-46.7

小売業

売上DI値は△38.0、前期実績10~12月期(△12.5)に比して25.5ポイントの下降。収益DI値は△27.6、前期実績10~12月期(△37.5)に比して9.9ポイントの上昇、総合判断DI値は△38.0、前期実績10~12月期(△58.4)に比して20.4ポイントの上昇と、水面下ではあるものの収益・総合は改善、売上は悪化傾向が見られた。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断とも厳しい見通しである。

個人消費は持ち直しの兆しがあるも低調。原油高騰や円安による原材料高が、各商品の小売価格にも反映され利幅が圧迫される。向こう3カ月の見通し 原材料高による利幅縮小は続く見込み。国内景気の回復による所得増加で個人消費のアップ(5)期待したい。(商業部会)



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月見通し
売上	-42.9	-41.7	-12.5	-38.0	-41.4
収益	-50.0	-45.8	-37.5	-27.6	-34.5
総合	-35.8	-41.6	-58.4	-38.0	-31.1

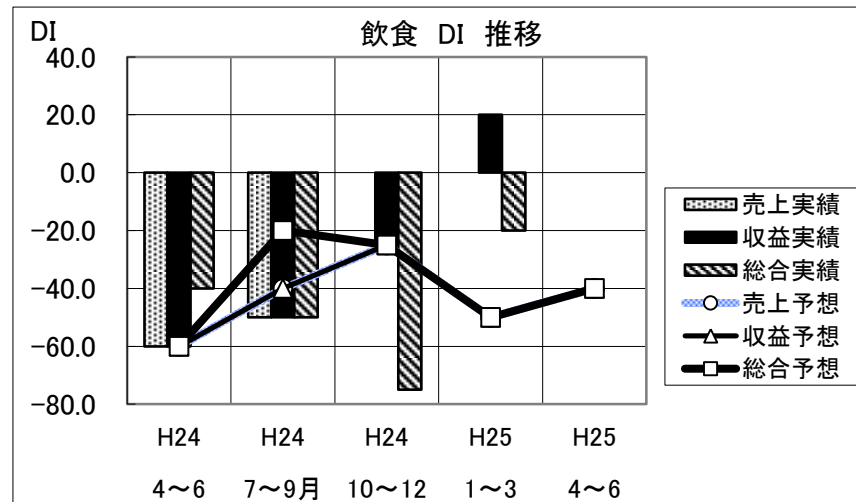
[飲食]

厳しい状況は変わっていないが例年並は確保。一昔前は、会社上げての忘新年会・歓迎迎会が行われていたが、現在は部所・課単位の小グループ化の傾向。ランチは良いが夜の入込客数は少ない。特に、夜はファミリー層が大手チェーン店に流れる傾向が強い。

向こう3カ月の見通し 地元グルメ制作を進めていることは知っており、飲食店としても協力していきたいと思っている。地元飲食店の若手に協力を要請して、若い知恵・力で新しいものを作していきたい。近年では、地元以外の方はインターネット検索で店に来る人が増加。パンフレット・口コミでの宣伝も重要であるが、インターネットを有効に活用していきたい。また、来店される方の年齢等を考慮したメニュー作りも必要と考えており、来店者のニーズを捉えた料理を提供していきたい。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-40.0	0.0	-40.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-40.0	0.0	-40.0
④採算(収益)	-20.0	20.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	-20.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月見通し
売上	-60.0	-50.0	0.0	0.0	-40.0
収益	-60.0	-50.0	-25.0	20.0	-40.0
総合	-40.0	-50.0	-75.0	-20.0	-40.0

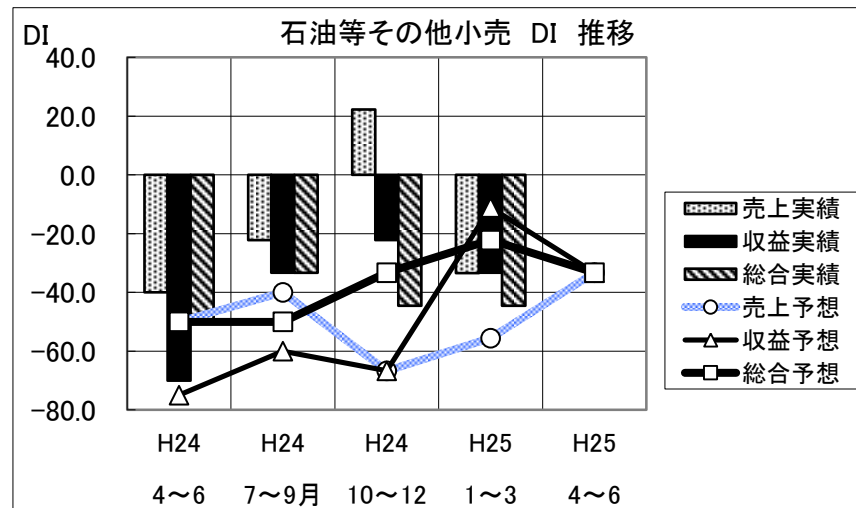
[石油等その他小売]

原油価格は、米財政不安の後退や地政学リスクの高まりを受けて上昇し、4ヵ月振りの高値圏で推移している。1月93ドル台へ上昇し、その後も堅調な米経済指標や中東・アフリカ地域の地政学リスクの高まりから上昇し、1月末には97ドル台と4ヵ月振りの高値となった。2月に入り、95~97ドル台と狭いレンジで推移している。アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場は、1月21日以降107~109ドル台で小幅変動。1月上旬の原油CIF価格は、60,022円/kl、1月下旬の原油CIF価格は、62,343円と上昇、2月中旬の原油CIF価格は65,357円となっている。為替レートは円安となり、安値水準が続いている。

向こう3カ月の見通し 原油価格は四半期平均で94~97ドル台の推移が見込まれる。世界的な金融緩和を受けて原油市場に資金が流入しやすい環境にある。供給面でも、中東・アフリカ諸国の情勢緊迫化は当面続くとみられ、原油価格の押し上げ要因となろう。原油価格は四半期平均で94~97ドル台と幅広い圏内での推移が予想される。(エネルギー部会)

(石油等その他小売) (DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-33.4	-33.4	-33.3
②製品・商品在庫	-22.2	-22.2	-22.2
③資金繰り	-33.3	-22.2	-33.3
④採算(収益)	-55.6	-33.3	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	11.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-55.6	-44.5	-33.3



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月見通し
売上	-40.0	-22.2	22.3	-33.4	-33.3
収益	-70.0	-33.3	-22.2	-33.3	-33.3
総合	-50.0	-33.3	-44.5	-44.5	-33.3

サービス業

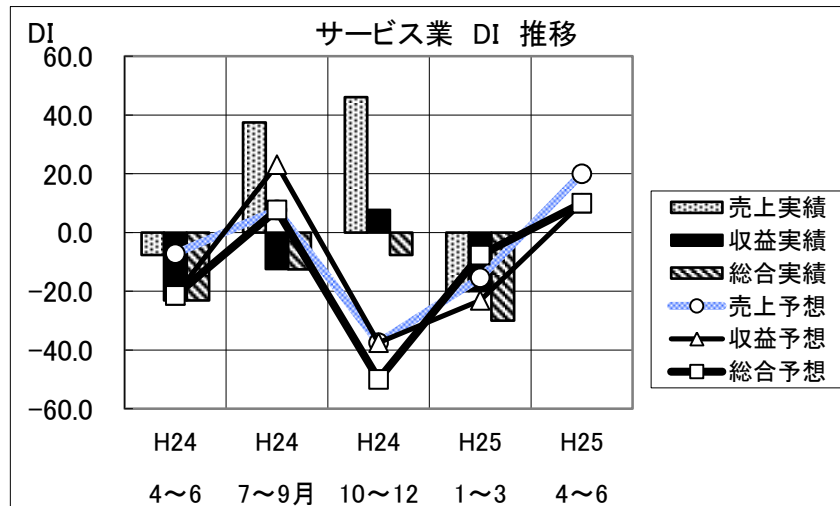
売上DI値は△20.0、前期実績10～12月期(46.1)に比して66.1ポイントの下降、収益DI値は△20.0、前期実績10～12期(7.7)に比して27.7ポイントの下降、総合判断DI値は△30.0、前期実績10～12月期(△7.7)に比して22.3ポイントの下降と、年末年始の需要期を抜けて売上・収益・総合とも悪化傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断とも改善傾向にある。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-20.0	20.0
②製品・商品在庫	-10.0	0.0	0.0
③資金繰り	-10.0	-20.0	-10.0
④採算(収益)	-30.0	-20.0	10.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-40.0	-20.0	40.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-30.0	10.0



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-7.7	37.5	46.1	-20.0	20.0
収益	-23.1	-12.5	7.7	-20.0	10.0
総合	-23.1	-12.5	-7.7	-30.0	10.0

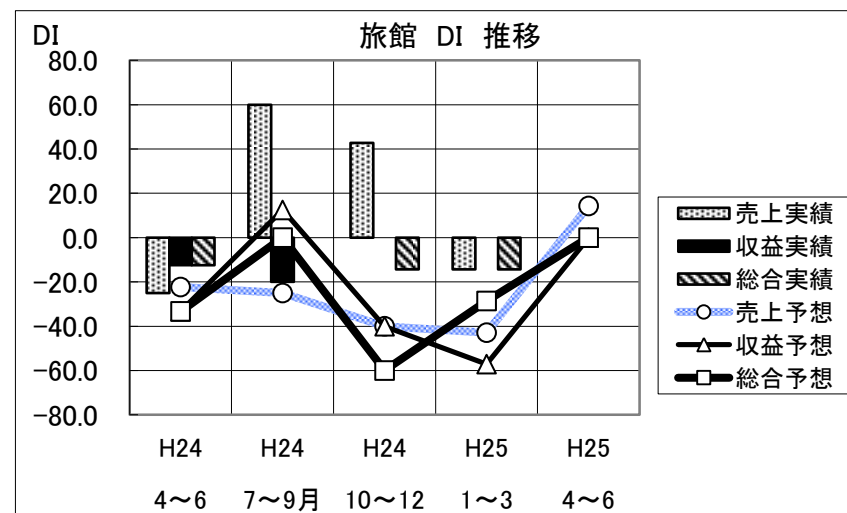
【旅館】

宿泊者数は、1～3月前半まで厳しい状況が続いたが、中旬以降は春休みに入ったこともあり上向き。ラグーナ蒲郡で開催中の「ジブリがいっぱい」の効果や天候にも恵まれ3月中旬以降は昼食・日帰り温泉利用が増加。また、近隣からの日帰り客の増加にも影響しており、3月中旬以降は昼食・日帰り温泉利用が増加。また、観光交流センターは、蒲郡の観光情報だけでなく、蒲郡市・東三河・西三河の情報発信の核になって欲しい。また、市民が立ち寄り交流が生まれる場所となり、観光のまち蒲郡をもっと理解して頂きたい。物産販売も検討し、より利用しやすい場所にしたい。向こう3カ月の見通し 年間通じて開催されるラグーナ蒲郡の「ジブリがいっぱい」には期待大。また、伊勢神宮の式年遷宮に関しても既に良い影響があり、2泊目を蒲郡で宿泊するコースが存在している。三重県より東だけでなく西の観光客も、わざわざ蒲郡で宿泊するケースがある。その他にも、豊川でのB-1グランプリ等のイベントも、しっかりと掘り進んでいきたい。昨今、大手企業の雇用拡大や昇給等が報道されているが、旅館業に影響してくるのはしばらく先の事。個人客の動向が活気づくことを期待し、ターゲットを絞った誘客に取り組みたい。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-14.3	14.3
②製品・商品在庫	-14.3	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-14.3	0.0
④採算(収益)	-14.3	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-57.1	-28.6	42.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-14.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-25.0	60.0	42.8	-14.3	14.3
収益	-12.5	-20.0	0.0	0.0	0.0
総合	-12.5	0.0	-14.3	-14.3	0.0

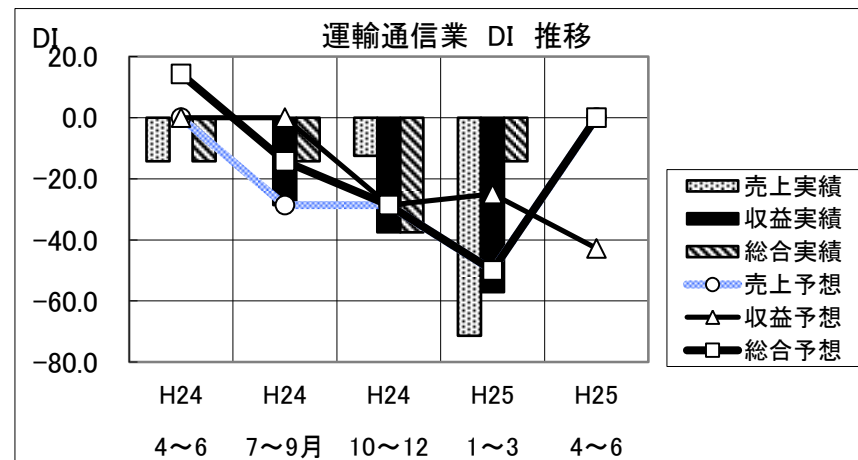
運輸通信業

売上DI値は△71.4、前期実績10～12月期(△12.5)に比して58.9ポイントの下降、収益DI値は△57.1、前期実績10～12月期(△37.5)に比して19.6ポイントの下降、総合判断DI値は△14.3、前期実績10～12月期(△14.3)に比して23.2ポイントの上昇と、売上・収益は悪化、総合は水面下ながら改善傾向である。
向こう3カ月の見通し 売上・総合は改善。収益は水面下ながら改善の兆しが見えた。

運輸通信業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-14.2	-71.4	0.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-14.3
③資金繰り	0.0	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-71.4	-57.1	-42.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-14.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-14.3	0.0	-12.5	-71.4	0.0
収益	0.0	-28.6	-37.5	-57.1	-42.8
総合	-14.3	-14.3	-37.5	-14.3	0.0

[旅客・貨物輸送・水運]

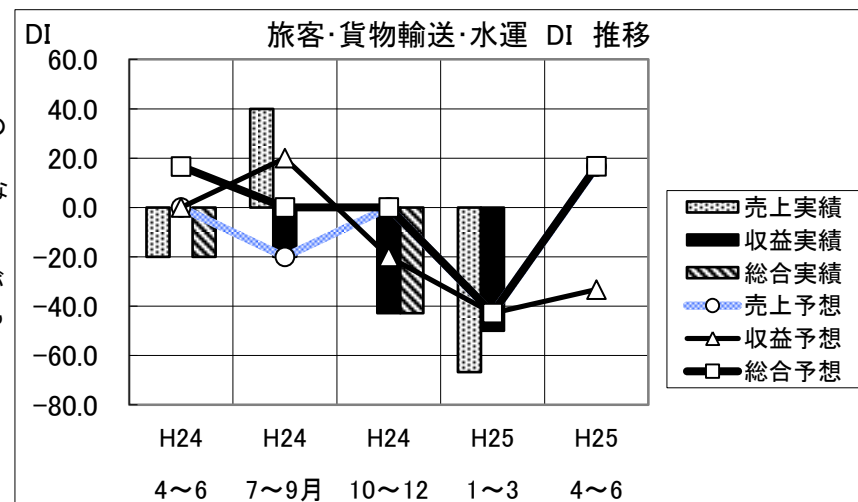
<貨物輸送> 輸送量全体は対前年微増に留まる。輸出は、円安傾向だがやや減少。輸入はエネルギー需要を中心に横バイ。木材等の原材料は、全般に対前年微増だが、原木輸入はユーザーの事業停止と産地の出荷が滞った影響で大きく減少。完成車輸出台数は、欧州の販売不振で前年同期の約1/3に減少。向こう3カ月の見通し 国内の荷動きは円安と株高を背景に好転の兆しはあるが、物流に影響が出来るのは半年遅れとなる為、当面は厳しい。木材等の原材料輸入は、消費税増税前の駆け込み需要で住宅着工が増加傾向にあるものの、産地での備船が困難な状況で当面横バイの見込み。輸出は円安で改善に期待も、契約と船積み時期のタイムラグで改善効果は第3四半期以降の見込み。完成車輸出は、現行の欧州向けに加え4月から北米向け再開で対前年30%増の見込み。

<バス業界関係> 昨年と同じ状況であるが、個人の動きが良くなっているように思える。ツアーに関しては日帰りが主に人気がある。宿泊はお値打ちプランは良好。向こう3カ月の見通し 昨年より良好。団体客も動きがあり、バスも受注状態が良くなっている。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年1月～3月 に比べて	前期比 平成24年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成25年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-66.7	16.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-16.7
③資金繰り	0.0	-16.7	0.0
④採算(収益)	-66.7	-50.0	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-16.7	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	16.6	0.0	16.7

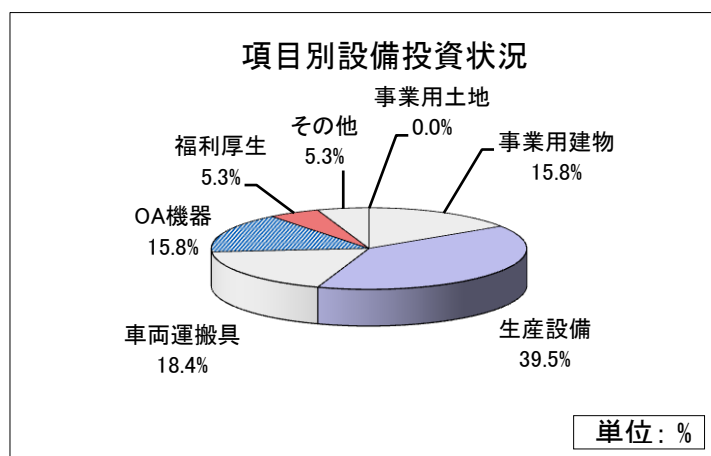
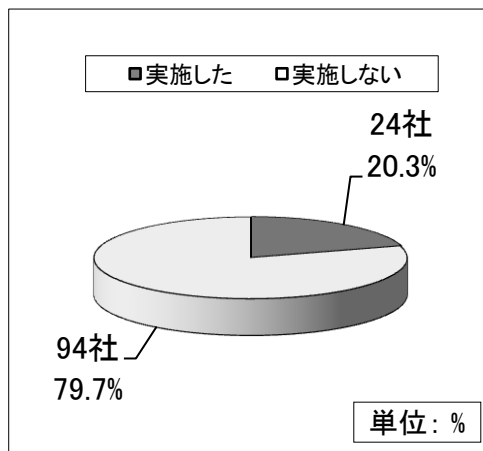


<業況判断DIの推移>

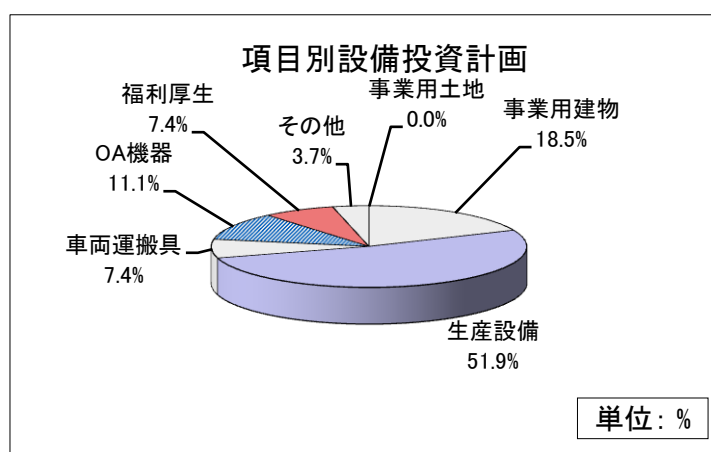
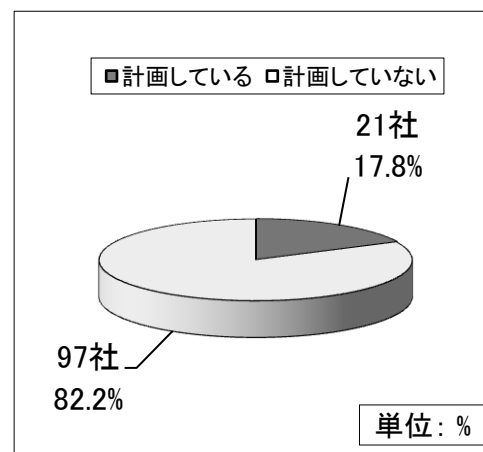
	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月	4～6月見通し
売上	-20.0	40.0	0.0	-66.7	16.6
収益	0.0	-20.0	-42.8	-50.0	-33.3
総合	-20.0	0.0	-42.8	0.0	16.7

7. 設備投資動向

＜今期(H25. 1～3月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H25. 4～6月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	0	0
事業用建物	6	5
生産設備	15	14
車両運搬具	7	2
OA機器	6	3
福利厚生	2	2
その他	2	1
計	38	27

(単位: 件)

◎今期(H25.1～3月)、来期(H25.4～6月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H25. 1～3月)	24	16	0	1	3	2	2
2. 来期 (H25. 4～6月)	21	16	0	2	0	1	2

(単位: 事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 118 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	85 72.0%
2	利幅の縮小	69 58.5%
3	原材料(燃料)高	48 40.7%
4	競争激化	45 38.1%
5	人件費の増加	11 9.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 47 社	売上の停滞・減少 28 社 59.6%	利幅の縮小 25 社 53.2%	原材料(燃料)高 25 社 53.2%
建設業 8 社	利幅の縮小 8 社 100.0%	売上の停滞・減少 7 社 87.5%	競争激化 3 社 37.5%
卸売業 17 社	売上の停滞・減少 13 社 76.5%	利幅の縮小 8 社 47.1%	原材料(燃料)高 8 社 47.1%
小売業 29 社	売上の停滞・減少 22 社 75.9%	利幅の縮小 19 社 65.5%	競争激化 14 社 48.3%
サービス業 10 社	売上の停滞・減少 10 社 100.0%	利幅の縮小 4 社 40.0%	顧客の他地域への流失 4 社 40.0%
運輸通信業 7 社	売上の停滞・減少 5 社 71.4%	利幅の縮小 5 社 71.4%	原材料(燃料)高 4 社 57.1%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.58

番号	調査項目	単位	H25. 3報告	基準日	H25. 1報告	基準日	H24. 10報告	基準日	H24. 7報告	基準日	出典
1	人口	人	80,172	H25.3.1	80,302	H24.12.1	80,386	H24.10.1	80,431	H24.7.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,684	H25.3.1	29,657	H24.12.1	29,640	H24.10.1	29,566	H24.7.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	50,229	H25.1.1	50,431	H24.10.1	50,431	H24.10.1	50,317	H24.7.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,102	H25.3.1	2,088	H24.12.1	2,119	H24.10.1	2,188	H24.7.1	〃
5	建築確認届出件数	件	131	12月～2月	105	9月～11月	111	H24.6～8月	129	H24.3～5月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	3.5	10月～12月	4.1	H24.11月	4.3	H24.7月	4.4	H24.5月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	3.5	H24.10～12月	3.2	H24.7～9月	4.2	H24.4～6月	3.7	H24.1～3月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.85	H25.2月	0.80	H24.11月	0.83	H24.8月	0.81	H24.5月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.66	H25.1月	0.63	H24.10月	0.72	H24.8月	0.62	H24.5月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

(※) 統計数値に、岩手・宮城・福島を除く集計です。

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% 実質	新車販売台数 (万台)登録車(軽自動車除く)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	500.3		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	509.6		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	498.4		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	497.6		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	502.9		▲ 1.2	-
2001年度	平均 340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	497.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	491.3		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	490.2		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.3		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	501.7		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	507.3		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	515.5		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,093,519	504.2		▲ 1.9	321.2
2009年1月	277	4.1	0.67		70,688			▲ 5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	▲ 36.9	62,303	118.0	▲ 3.8	▲ 3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52		66,628			▲ 0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46		66,198			▲ 1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	▲ 37.7	62,805	119.3	1.6	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43		68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42		65,974			▲ 2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	▲ 27.0	59,749	119.1	▲ 0.2	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43		61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43		67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	▲ 4.8	68,198	125.7	1.9	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43		69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	20.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	27.9	56,527	117.9	1.6	▲ 0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	12.7	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	32.0	66,568			▲ 0.7	22.2
5月	347	5.2	0.50	16.2	59,911	119.4	1.1	▲ 0.7	22.8
6月	344	5.3	0.52	26.0	68,688			0.5	29.3
7月	331	5.2	0.53	20.8	68,809			1.1	33.3
8月	337	5.1	0.54	38.8	71,972	118.6	0.5	1.7	29.0
9月	340	5.0	0.55	12.7	71,998			0.0	30.8
10月	334	5.1	0.56	20.2	71,390			▲ 0.4	19.3
11月	318	5.1	0.57	17.9	72,838	125.7	0.0	▲ 0.4	20.3
12月	298	4.9	0.57	7.2	74,517			▲ 3.3	17.9
2011年1月	309	4.9	0.61	27.6	66,709			▲ 1.0	18.7
(平成23年)2月	302	4.6	0.62	31.4	62,252	115.7	▲ 1.7	▲ 0.2	25.2
3月	304	4.6	0.63	5.5	63,419			▲ 8.5	27.9
4月	309	4.7	0.61	2.3	66,757			▲ 3.0	10.8
5月	293	4.5	0.61	16.4	63,726	114.9	▲ 0.5	▲ 1.9	14.2
6月	293	4.6	0.63	12.2	72,687			▲ 4.2	22.5
7月	292	4.7	0.64	▲ 2.3	83,398			▲ 2.1	24.1
8月	276	4.3	0.66	1.0	81,986	116.3	1.4	▲ 4.1	21.6
9月	275	4.1	0.67	5.9	64,206			▲ 1.9	31.3
10月	288	4.5	0.67	▲ 5.8	67,273			▲ 0.4	24.7
11月	280	4.5	0.69	3.9	72,635	123.5	▲ 0.2	▲ 3.2	25.2
12月	275	4.6	0.71	2.6	69,069			0.5	22.1
2012年1月	291	4.6	0.73	14.0	65,984			2.3	26.3
(平成24年)2月	289	4.5	0.75	▲ 9.3	66,928	118.3	1.2	2.3	33.3
3月	307	4.5	0.76	8.8	66,597			3.4	49.7
4月	315	4.6	0.79	8.8	73,647			2.6	20.8
5月	297	4.4	0.81	▲ 7.6	69,638	118.2	0.2	4.0	23.6
6月	288	4.3	0.82	▲ 11.4	72,566			1.6	31.7
7月	288	4.3	0.83	2.1	75,421			1.7	32.8
8月	277	4.2	0.83	▲ 19.2	77,500	115.8	▲ 0.9	1.8	23.2
9月	275	4.2	0.81	▲ 7.9	74,176			▲ 0.9	28.8
10月	271	4.2	0.80	▲ 4.4	84,251			▲ 0.1	22.5
11月	260	4.1	0.80	▲ 1.2	80,145	123.3	0.0	0.2	24.3
12月	259	4.2	0.82	▲ 12.6	75,944			▲ 0.7	21.4
2013年1月	273	4.2	0.85	▲ 27.3	69,289			2.4	22.9
(平成25年)2月			0.85		68,969				29.2
3月									42.0

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。